

第2回 習志野市次期基本構想・基本計画策定市民会議 会議概要

日 時：平成24年6月23日（土曜） 10時00分から13時00分まで

場 所：習志野市 本庁舎5階会議室

議 事 録：

議 題 及 び 会 議 の 概 要	<p>【議題】</p> <p>開 会 勉強会 ・習志野市の人口推計について ワークショップ ・テーマ「保健・医療・福祉」 閉 会</p> <p>【会議の概要】</p> <p>≪勉強会≫ [人口推計について] (1) 説明</p> <p>市制施行直後の昭和30年の常住人口は32,198人、平成22年の人口は164,530人で約5倍の増加となっている。</p> <p>自然増減（出生と死亡の差）としては10年間の平均で500人程度は増加しているが、出生と死亡の差は年々小さくなっており、いずれ逆転する時が来ることが予想される。なお、千葉県としては既に逆転をしている。</p> <p>推計は平成53年までの30年間を推計した。ピークは平成30年で、172,960人、現在と同程度まで減少するのが平成43年ごろと推計している。</p> <p>平成30年ごろから人口は減少すると推計しているが、減少のスピードは急激ではなく、むしろ緩やかで、30年後の平成53年では、平成15年の人口規模と同程度と見込んでいる。</p> <p>年齢区分別でみると、65歳以上の老年人口は平成53年で29.6%、15歳から64歳までの生産年齢人口は59.2%、14歳以下の年少人口は11.2%で、高齢化は進行していく。</p> <p>総人口が減ることも問題ではあるが、人口全体の平均年齢が上がり、高齢化が進行してしまうことがより大きな問題であると捉えている。</p> <p>人口の増減については一長一短あると考えている。</p> <p>人口が増えれば税収も増え、まちづくりに使えるお金も増え、豊かな習志野市を作り上げていくこともできるであろうが、一方で、人口が増えることによるインフラ整備、高齢者施策、子育て施策に係る費用というものも莫大なものとなってくる。</p> <p>また、人口増加策イコール必ず生産年齢人口が増えるというわけでもな</p>
--	---

第2回 習志野市次期基本構想・基本計画策定市民会議 会議概要

	<p>い。</p> <p>日本全体が人口減少、そして高齢化社会となる中では、絶対的なパイが小さくなる。何が適正で、どの規模が良いのか、というのは大きな問題であるとも言える。</p> <p>このようにあまり明るい話題が乏しい中でも、夢のある、しかし現実的な未来というものを作っていく必要がある。</p> <p>このような課題を抱え自治体経営を進めて行くには、市全体の土地利用や、都市基盤整備、教育、福祉など、財政状況等を考慮しながらまちづくりを進めていく必要がある。</p> <p>大変困難な状況ではあるが、皆様と手を携え、乗り越えていきたいと考えている。</p> <p>《ワークショップ》</p> <p>[保健・医療・福祉]</p> <p>(1) ワークショップ結果 別紙の通り。</p>
--	--

習志野市次期基本構想基本計画策定市民会議
第1回ワークショップ テーマ：『保健・医療・福祉』

日時：6月23日（土）10：00～13：00

場所：習志野市役所5階AB会議室

出席者：

A班：井上昇二委員・江口幸恵委員・金子美代子委員・菊地大委員・安武みな子委員

B班：小原松枝委員・工藤光明委員・佐藤淳委員・苗村教子委員・松野さやか委員

C班：五十嵐理恵子委員・斉藤大貴委員・佐野正孝委員・平川嘉伸委員

欠席者：近藤鈴奈委員・櫻井ますみ委員・澤根正好委員・高島満子委員

A班報告(リーダー:井上委員)

A班では5項目に分けて、問題、不安、思っていることを書き出してもらいました。健康づくりなど、自分に関連しているものについては意見が出てきましたが、高齢者福祉・障がい者福祉・子育て児童福祉・社会保障医療については最初あまり意見が出ず、最後のまとめということになってしまいました。

【健康づくり】

まず健康づくりから申し上げますと、色々市の施設がありますが活用されていないのではという意見がありました。それは皆に知られていないこともあるのですが、やはり市の広報等で皆さんに知って頂く努力が必要で、それに伴い運動できる所をもっと増やしてほしいという意見です。

また習志野市に比較的整備された道路（ハミングロード）がありますが、ゴミがあつたりベンチ等が傷んでいることがあるようなので整備してもらい、市民はゴミゼロ運動等に積極的に参加していったら良いかと思えます。あと自分から健康づくりに対して意識をもって参加するよう意識付けを持たなければいけないのではないかということです。

市の方で取り組んでもらいたいことで、先程も施設が活用されていないと言いましたが、河口湖に山の家（事務局注：富士吉田市「富士吉田青年の家」のこと）を確か市で持っています、もっと利用してはどうかと思えます。また公園にお年寄りに簡単なぶらさがり健康器のような健康増進のために利用できる器具を設置したり、健康のための施設等があつたら良いのではないかという意見がありました。

先程ハミングロードの話が出ましたが、最近通勤等で自転車を利用される方が多くなっていますが、そういう所で自転車は車と同じ扱いということで非常に危ないので、サイクリングロードが整備されれば自転車に乗る方にも安全で、健康づくりにも役立つのではないかと思えます。あと中学校とか小学校で、日曜日などに開いている学校があれば、市民に開放すれば健康増進に役立つのではないかという意見がありました。

【高齢者福祉】

高齢者福祉ですが、特別養護老人ホームを作るとなると非常にお金がかかるものですが、これからどんどん高齢者が増えて、共稼ぎの夫婦も増えていきますし、自分の面倒も実際なかなか見ることができない状況も出ていますので、こういう施設が確立されれば良いのではないかと思います。あと、タクシー乗り場を増やしてほしいとか、近くにコンビニ等があると便利ではないかという意見がありました。新聞を取っていると広報などが入っていて読むことができますが、最近は携帯・パソコンの利用が多く、広報も送られてこないの、重要な地域の情報はメール等で発信ができれば便利でよろしいかと思います。

【障がい者福祉】

障がい者福祉ですが、実際に自分が健康だと段差などあまり気になりませんが、実際車椅子を押して家族が介護していますと、非常に段差が多く、障がい者には本当に大変というご意見がありました。少し重なるかもしれませんが、小学校前の道路が狭くて子ども達が非常に危険だという意見もあり、先程のサイクリングロードとも重なりますが、自転車専用道路とか、自転車が通れるよう歩道を広くすると非常に楽しいまちになるのではないかと思います。

【子育て支援】

市民それぞれが子育て分野でできることという、子ども達を見守ることですね。いじめ等あったら他人の子どもでも大人が注意していくことを心がけていくことが、市民それぞれに出来ることかなというところでは。

避難場所の表示が少し分からないのですが、ちゃんと分かる所に市の方で表示して頂きたいと思います。最近、図書館などに海拔の案内掲示・表示があるとのことですが、津波がどの程度まで来るのかがもし分かれば、逃げる必要があることを意識でき、これ以上高い所に逃げなければいけないと認識できると思います。道路の方は生活道路、先程の小学校前の道路もですが、今無免許運転や色々無謀な運転で子ども達のはねられる事故もありますので、整備して頂きたいということです。

公園ですが、遊具が古くなったことにより子どもが怪我をしてしまうのか、予算の都合なのか、どんどん撤去されていますが、公園を利用し皆が集まれるようにしても良いのではと思います。

よく問題となる待機児童や保育園が少ないことですが、幼稚園で保育もして頂ければ待機児童が減るのではないかと希望しています。

【医療】

医療の面ですが、やはり小さい子どもがいると急に具合が悪くなった時、土日医者が休みの所が多かったり、当番医がいても非常に離れた所だったりしますと、車で病院に駆けつけることもできますが、足が無い方は困ります。自分の地区に一つ当番医を開けてもらえないかという意見がありました。

【地域福祉】

地域の交流、地域の福祉ですが、マンションに住んでいっしょだと自治会があっても参加する方は非常に少ない。そういう自治会・町会を活発化したら地域住民の絆が深まり、何かあった時に活用できるのではないかという意見がありました。あと若年者向けの公共施設が足りないことに対して、市民は積極的に自分達から町会とか自治会の運動に参加・活用していくこと、隣近所には自分から声をかけることですね。ボランティア活動は、もし地元であったら自分から積極的に参加していくことも必要だと思います。

市への要望となりますが、今防災訓練をやっていますが、自分から参加し団結意識と防災意識を高めることですね。これに関連して気軽に皆が集まれるような交流の場・施設があれば良いのではないかと思います。例えば喫茶店が非常に少なくなっていますが、以前あった市民食堂のように安くて集まれる場があればと思います。あと、治安の良いまちづくりのために生涯学習を市で催すのも色々な意味でケアになるのではという意見がありました。以上です。

B班報告(リーダー:佐藤委員)

B班では、最初この5項目に分けて検討していたのですが、どうも市と市民の取り組みが項目分けからいくと分け切れず、10個ぐらい課題が出てきたので、非常に見にくいですが説明させていただきます。

【医療】

まず、障がいのあるお子さんの早期発見・支援や、医大との支援契約・医師の確保、他市のような緊急センターがない、子どもの夜間病院が無いという意見がありました。市としては是非24時間対応の基幹病院を検討して頂き、市民の方は難しいですが、お願い(市民運動)が必要ではないかということです。

次に医療費が高い、医療費の明確化、あと乳幼児医療補助の拡大です。今、小学3年生まで補助がありますが、中学生、高校生、20歳まで拡大して欲しいところです。市としては対象年齢の拡大を是非検討して頂きたい。市民は逆に無料化でも安易な医療受診をしない意識づけが大事だと思います。

【高齢者支援】

介護者がいる場合の相談先が不明ではないかと思います。一番良いのは市のコールセンター、そこに相談すれば設定して頂けるものと思います。あと、要介護者がいる世帯の具体的な市の制度、ここも市としてフォローして頂けないかと思います。市民としては、やはり積極的な情報収集をする必要があるというのが結論です。

【食育】

食の安全性と地産地消の取り組みをもっとやった方が良いのと、放射線不安への対応です。習志野市産の野菜や学校教育機関の(放射線量)数値に不安という課題があるので、市としては市民への食育の支援・推進、あと市民農園の取り組みの助成ですね。農業指導、

我々のチームの工藤委員が農業指導員をやっています。それと子どもの体験の場をつくるのが良いのではないかと思います。市民としては花いっぱい運動といったボランティア参加、農業指導に積極的に参加していくというところです。

【地域福祉】

続いて参加型の福祉です。自らの知識・経験を社会参加にということで、いわゆるリタイアされた方が積極的に参加できる場が無いのではないかと。そこで市の取り組みとしては、社会貢献をしたい人に対するバックアップを検討して頂き、市民としては隣近所でこういう制度があるといった情報交換や共有をちゃんとやった方が良いのではないかと思います。

【子育て支援】

続いて保育です。安価な保育所というのがやはり働く者からすれば必要です。市としては、その日突然お子さんを預けなければいけなくなった市民に対し、緊急的に受け入れられる所の確保を是非ご検討してほしいという意見がありました。

【障がい者福祉】

障がい者に対する市の施策が分からない。これは周知不足かという課題と、健康保険料の削減方針が見えない。

通院のための交通手段確保や高齢者の医療介護費の増大対策が不明という課題に対し、市の取り組みとしては補助の内容をPRすること。市が情報公開をしていないのではなく、要は伝わっていないというのが現実で、当然市民としては積極的に情報収集する必要があると思います。

【市民交流】

交流の場で、介護が必要とならないようにする健康づくりの推進や、定年後の交流場所がない、高齢者と若者が交流する場がないということです。市としては交流する場所を是非積極的に提供して頂きたい。その中の一つとして公園整備があるのではないかと思います。市民は仲間づくり・声かけをした方が良いと思います。

【その他の意見】

その他の意見として特に多かったのがバリアフリー関係です。習志野市は歩道の段差が多く、よくインターロッキング舗装によって綺麗にされていたり、真ん中に植栽している道路があります。こうした道路は高齢者や交通弱者の方に非常に優しくないで、バリアフリーを意識した道路整備も課題です。

幼稚園や秋津の総合福祉センターに行くバス停と運行時間が分かりづらい。歩道は自転車も通り危ないので、自転車と歩行者の分離も意見として出ました。

全体に繋がる要望として、知りたいことを検索できるシステムがあれば良いなという意見がありました。以上です。

C班報告(リーダー:平川委員)

一番多く出ていたのが地域福祉です。この市役所とか施設、そこでサービスについて班で話し合う中で聞くと色々な意見があり、家のポストには広報紙やハンドブックなど色々入っているが、何故か市民に伝わっていないという問題があり、その辺についてもう少し市で工夫してもらえないかと思います。

最近の生活から見て土日や夜間に市内に人がいることが多いので、それならば市の施設等も対応して夜間・休日も開けてもらい、そこに聞けば色々な事が分かる総合窓口的なものがあれば良いなという意見がありました。

【高齢者・障がい者福祉】

高齢者支援や障がい者支援等にも関わりますが、地域全体として社協やまちづくり会議や消防団等ありますが、コミュニケーションが足りない、一歩入っていけないところがあるので市の方で仲介をして頂ければ良いかなと思います。市民の方もそれに積極的に参加していくという感じです。

【健康づくり】

健康づくりについては、一番入りやすいのは歩こうキャンペーンといった健康づくりに市民が参加できるようにしていけば良いと思います。市民もそういったキャンペーンに参加していく感じですね。

【総括】

課題はA班・B班とそんなに大きく変わらないと思いますが、我々C班では市の取り組むこと、市民が取り組むことといった解決策まで議論いかず少し反省はしています。今回一回だけではなく、また意見を出すことも可能だと思いますので、委員が6人揃ったところできちんと課題・解決策をC班としてまとめていきたいと思っております。

■保健・医療・福祉 A班

項目	課題	市が取り組むこと	市民が取り組むこと
健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> 市のスポーツ施設のジムマシンが対応できていない。 気軽に簡単なスポーツ・運動ができる所を増やしてほしい（例えば公園等）。 ハミングロード等汚いイメージ。 ゴミ箱が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設の活用推進（学校他、山の家の活用）。 公園に健康器具の設置。 市主体の健康づくりクラブの設立。 高齢者の健康のための施設。 マラソン・サイクリングロード整備。 小・中学校の施設開放。 	<ul style="list-style-type: none"> ゴミゼロ運動。 自分から健康づくりのサークル等に参加する。
高齢者福祉	<ul style="list-style-type: none"> 特養老人ホームの増設（高齢者福祉施設）。 タクシー乗り場を増やしてほしい。 コンビニ等買い物する場所が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の情報の発信をメールで欲しい。 避難場所の分かりやすい標識が欲しい。 生活道路の整備。 	
障がい者福祉	<ul style="list-style-type: none"> 段差が多くて障がい者は大変そう。 大久保小学校の前の道が狭く危険。 自転車専用道路整備。 		
子育て・児童福祉	<ul style="list-style-type: none"> 公園の子供用遊具の設置。 保育園の整備。 		
社会保障・医療	<ul style="list-style-type: none"> 当番医がその地域にあれば良い。 かかりつけ医が少なくなっている。 夜間等に体調が悪くなったら、どうしたらいいか分からない。 病院が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活道路の整備（高齢者福祉・障がい者福祉・子育て・児童福祉・社会保障・医療においても同様）。 	
地域の交流・地域福祉	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人との交流がない。交流施設があれば。 公園やマラソン道路等、清掃されてなく近寄りがたい。 若年層向けの公共施設が少ない。 気軽に入れる喫茶店が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練をすることで市民の団結意識を持たせる。 交流の場を増やしてほしい。 治安の良いまちづくりのため、生涯学習できる施設を増やしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 町会の活用。 日頃から声かけをするよう個人が気を付ける。 ボランティア活動の声かけ。

■保健・医療・福祉 B班

項目	課題	市が取り組むこと	市民が取り組むこと
全体		・市民が知りたいことを検索できるように。	
医療	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのあるお子さんの早期発見・支援。 ・夜間救急が分かりにくい。 ・他市のような救急センターがない。 ・子どもなどの夜間病院。 ・医療費が高い・医療費の明確化。 ・乳幼児医療補助の拡大。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医大の支援契約で医師の確保。 ・24H対応の基幹病院。 ・子どもの医療費対象年齢の拡大。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市へのお願い・市民運動。 ・安易な医療受診はしない。
地域福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の市民協力、連携の方針が見えない。 ・社会福祉協議会との連携。 ・地域にあわせた地域コミュニティの形成。 ・参加型の福祉、自らの知識・経験を社会参加に活かす。 ・通院のための交通手段整備。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ごとの連携できる場づくり。 ・社会貢献に対する市のバックアップ。 ・市の補助PR。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域参加型の市民協力。 ・隣近所での情報交換・共有←Twitterも。 ・積極的な情報収集。
高齢者福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・要介護者がいる場合の相談先が不明。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市のコールセンター作る。 ・要介護者がいる世帯への具体的な市の制度(フォロー)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集。
食の安全	<ul style="list-style-type: none"> ・食の安全性と地産地消の取り組み。 ・放射線不安への対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民への食育の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民農園の取り組み、農業指導、子ども体験。 ・花いっぱい運動、ボランティアの広がり。
子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・安価な保育所。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一日保育の受け入れやすさ。 	
保険料	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の医療費・介護費の増大。対策が見えない。 ・健康保険料の削減。方針が見えない。 ・障がい者に対する市の施策が分からない。 ・周知不足？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の情報公開。 ・介護が必要とならないような健康づくり推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の自覚・啓蒙。
地域の交流	<ul style="list-style-type: none"> ・定年後の交流の場が少ない。施設が少ない。 ・高齢者と若者が交流する場所がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園整備(交流の場)、交流する場所の提供。 ・障がい者ボランティアの充実・支援策。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間づくり・声かけ。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーの整備。 ・歩道の段差が多い。 ・歩道が狭く、自転車も通るので危ない。 ・幼稚園や秋津のセンターに行くバス停と、その時間が分かりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の整備(見た目ではなく高齢者を意識した)。 	

■保健・医療・福祉 C班

項目	課題	市が取り組むこと	市民が取り組むこと
健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩道の充実。 ・市民それぞれ健康か分かっていない。 ・健康診断あるが、疲労やストレスは分かりにくい。 ・スポーツ施設を！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩くキャンペーン1日一万歩。 ・65歳以上の人に万歩計プレゼント。 ・プラネタリウム・サッカー・野球・体育館を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1日1時間(歩くキャンペーンに積極的に参加する)。
地域福祉 (社会保障)	<ul style="list-style-type: none"> ・休日診療の充実。 ・社会福祉協議会との接点ない。 ・市民が知らない事が多すぎ。 ・交通安全パトロールの時間帯を増やす。 ・防犯対策。 ・図書館の活性化。利用されているのか。 ・土日・夜間も施設が開いてない。 ・ホームレスの方への支援。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社協との連携。 ・広報の仕方改善。 ・定期的に習志野マニュアル配布。 ・地域のコミュニケーションのできる場を作る。 ・警察・パトロールと連携。 ・町にパトロール。 ・市役所の利用、土日も平日と同じように利用できるようにする。 ・総合窓口時間帯。 ・総合相談窓口(夜間、休日もあいてる)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との関わりを自分達でもつくる。 ・周りの人と挨拶をする。
高齢者福祉・ 障がい者福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の一人暮らし対策。 ・高齢者の買い物支援。 ・在宅介護のあり方。 ・高齢者の余暇の過ごし方支援。 ・藤崎交番→日大方面。道路の安全対策、歩道・自転車の安全。 ・障がい者支援。 ・障がい者と理解しあえる場がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・孤独死対策。地域コミュニケーション指導。 ・バリアフリー。 ・高齢者・子どもたちの危険な歩道の整備。 	